

ファンクション〈出力 PLOT〉

操作説明

2020年6月版

ファンクション<出力 PLOT>とは

概略説明

ファンクション<出力 PLOT>は、MICRO CADAMで作図した図面の印刷を行うための機能です。

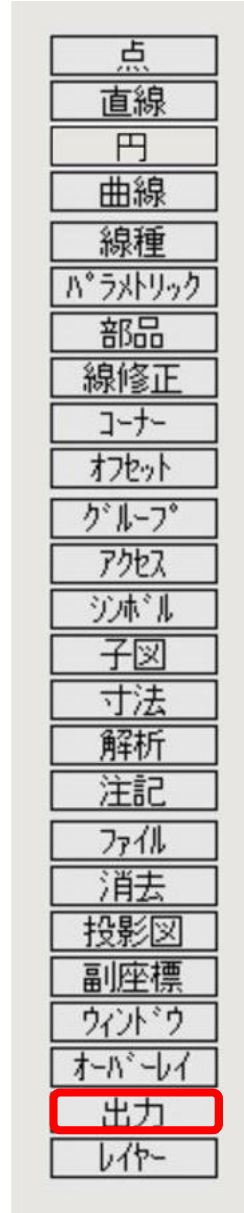
出力のプロセスとして、

- ・印刷したい図面の出図範囲を設定し
- ・それをファイルに保存
- ・出図予約

を行って出力します。

この項で学習すること

- ・プロットデータ（出図範囲）の作成手順
- ・出力装置の登録
- ・パラメーターの設定
- ・出力操作
- ・簡易印刷



キー入力によるプロットデータの作成

キー入力によりプロットデータを作成します

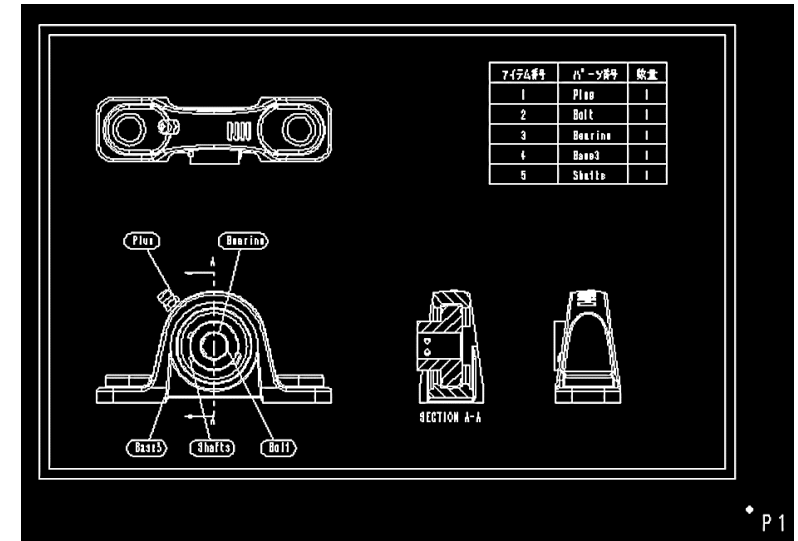
1. 図面「PLOT01_BA20」を開く [図1]
2. FK<出力>【プロットデータ】
3. 【キー入力】
4. 基準点として、図面の右下のP1をSEL
5. 出力範囲の高さと幅として、“297, 420”をキーイン
6. Y/N（出力範囲を了承）

最初に選択した基準点に赤丸印が付いて、出力される範囲が赤い線で囲まれて表示されます。[図2]
 基準点（右下）を起点とした高さ、幅の数値キー入力
 PLOT範囲を指定したプロットデータが作成されます。

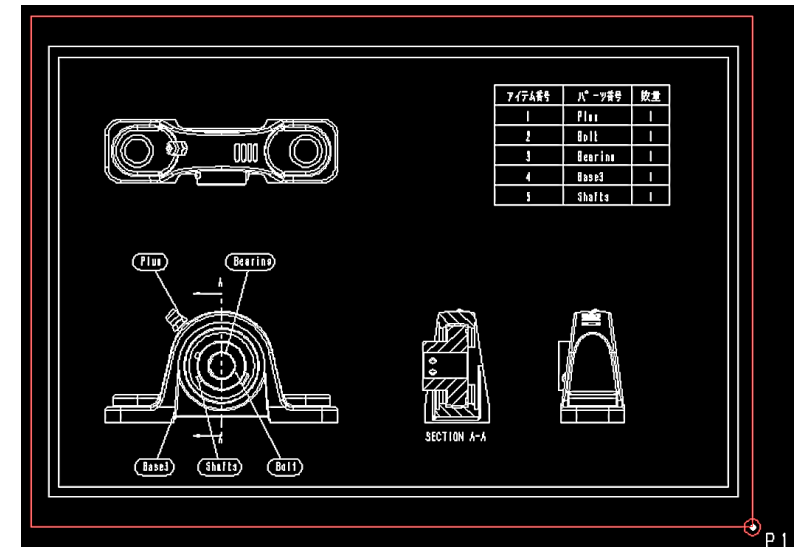
7. 【↑】

上記操作で作成したプロットデータは、必ず<ファイル>
 【ファイル】で保存してください。

[図1]



[図2]



NCラインの定義によりプロットデータを作成します

事前の準備として、まずNCラインを作図します

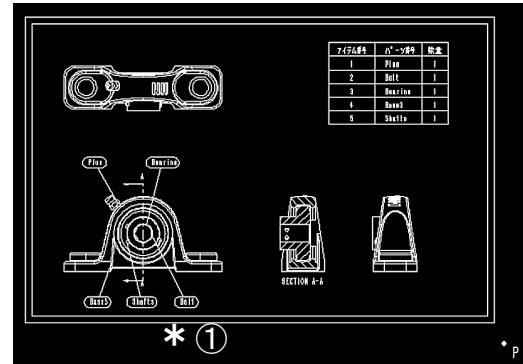
1. 図面「PLOT02_BA20」を開く [図3]
2. <直線>【水平】「○有限」
3. P1をSEL
4. 直線の長さとして、“420”をキーイン
5. 画面左方向（*①付近）をIND

長さ420mmの水平線が作成されます。[図4]

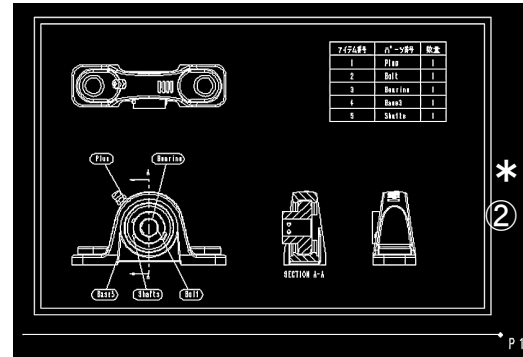
6. 【垂直】「○有限」
7. P1をSEL
8. 直線の長さとして、“297”をキーイン
9. 画面上方向（*②付近）をIND

長さ297mmの垂直線が作成されます。[図5]
基準点（右下）を起点として、作図範囲が収まるように水平線と垂直線を作成しました。
この2本の線が作図範囲を指定するためのNCラインの元になります。

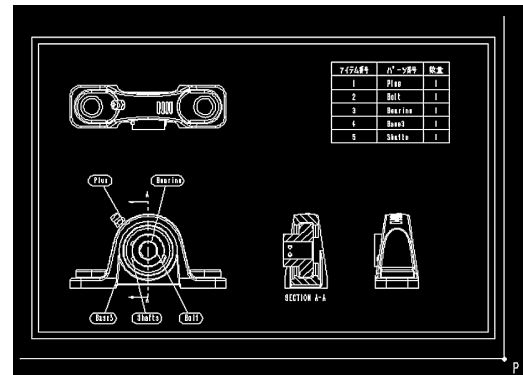
[図3]



[図4]



[図5]



NCラインによるプロットデータの作成

ここからは、NCラインの定義によるプロットデータ作成手順です

10.<線種>【線種1】

線種1のダイアログが表示されます。[図6]

11.線種リストから「NCライン」をSEL

12.「閉じる」

13.前ページで作成した水平線、垂直線をSEL [図7]

線種がNCラインに変更され、線長が少し短くなります。[図8]

14.<出力>【プロットデータ】

15.【NCライン】

16.P1をSEL

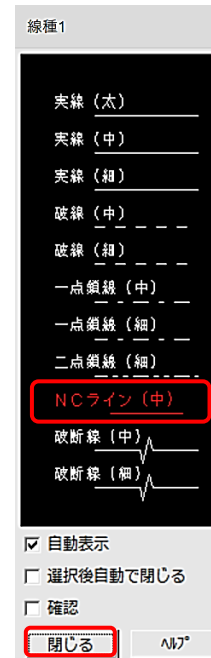
NCラインで指定した作図範囲が赤い枠で囲まれます。 [図9]

17.Y/N (出力範囲を了承)

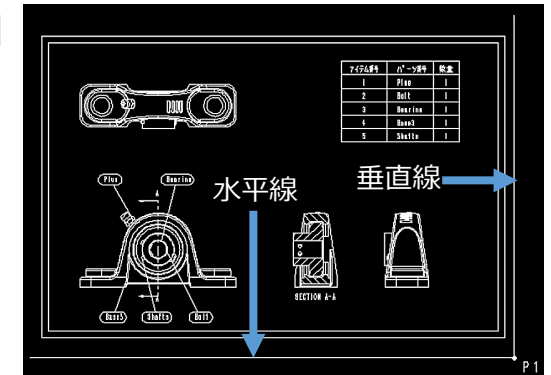
18.【↑】

線種をNCラインに変更すると、プロットデータを作成する際に自動的にラインで指定した範囲を認識します。
NCラインは印刷対象になりません。

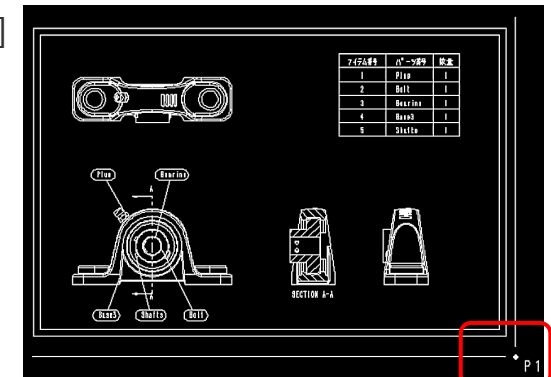
[図6]



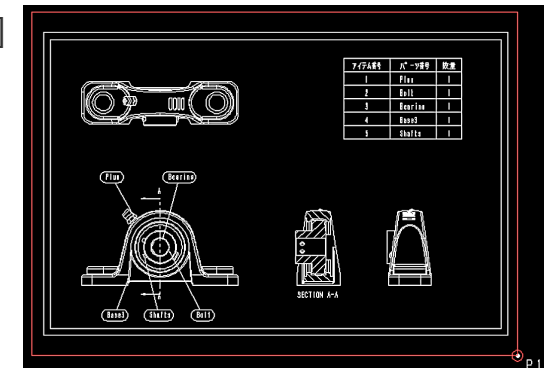
[図7]



[図8]



[図9]

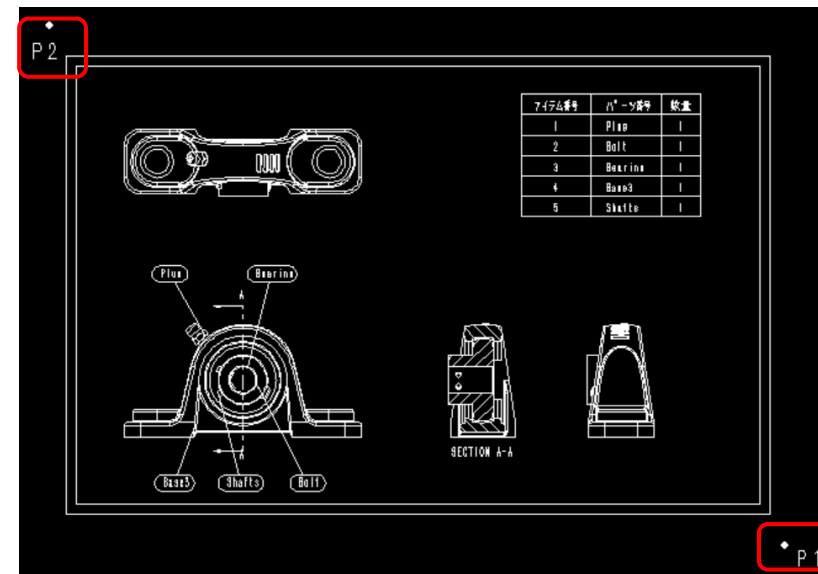


対角の2点を指定してプロットデータを作成します

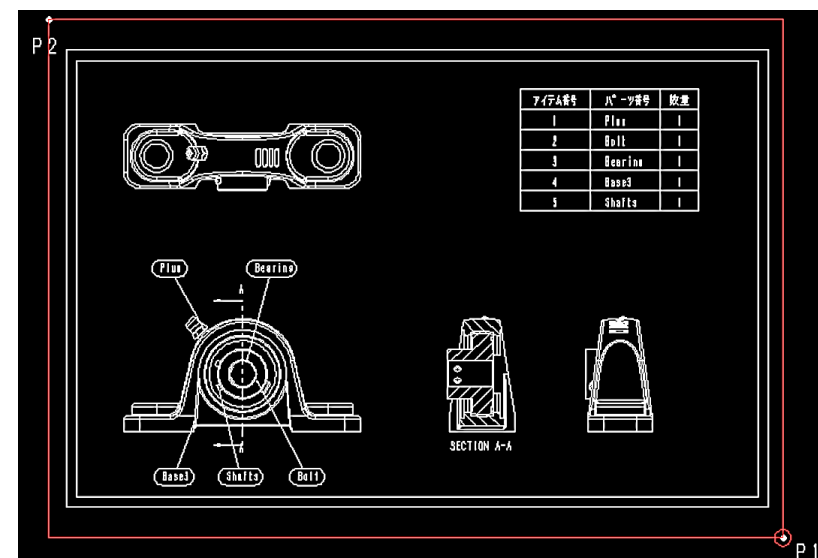
1. 図面「PLOT03_BA20」を開く [図10]
 2. <出力> 【プロットデータ】
 3. 【矩形】
 4. 作図範囲の対角の2点としてP1、P2を順次SEL
- 2点を頂点とした作図範囲が赤い枠で囲まれます。 [図11]
5. Y/N (出力範囲を了承)
 6. 【↑】

対角の2点を指定する方法は、あらかじめ点が作図されていれば「選択 (SEL)」で、点が作図されていなければ「指示 (IND)」で指定します。

[図10]



[図11]



出力操作を行う前に、出力装置の選択とパラメーターの設定を行っておく必要があります

■ 仮想出力装置の選択 [図12]

<出力>【出力装置】で、出力装置を選択します。

出力装置は、使用するプリンター/プロッターに応じて予め登録が必要です。

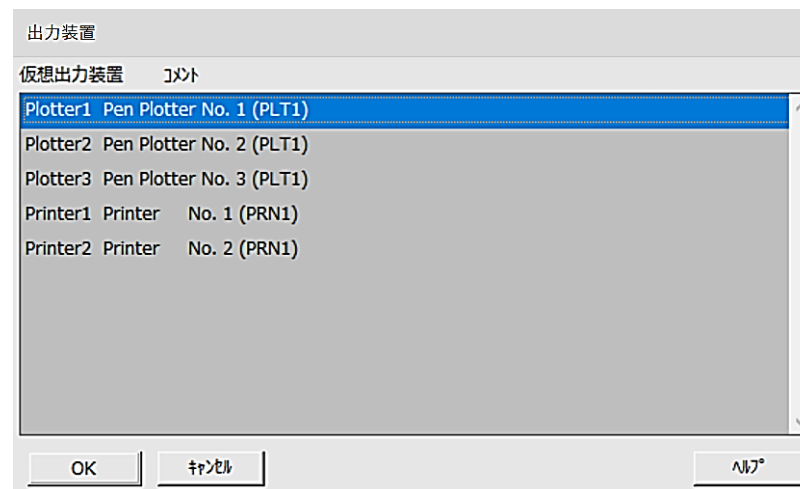
ここで選択した出力装置によって、出力操作を実施した後の結果も変わってきます。

■ パラメーターの設定 [図13]

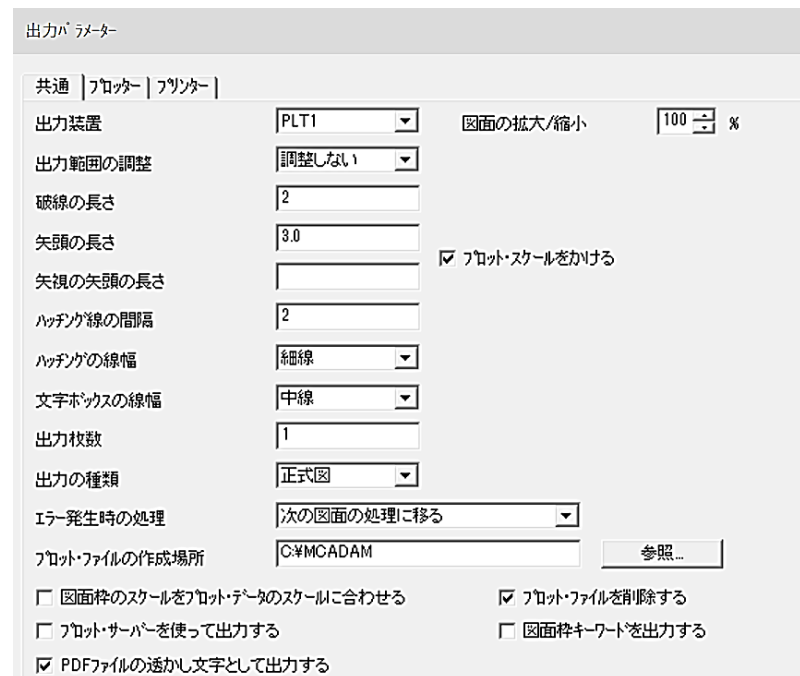
<出力>【パラメータ】の出力装置ダイアログ内の「出力パラメーター」で、出力時の各種パラメーターの指定を行います。パラメーターについては、非常に細かな指定が可能です。

仮想出力装置の登録も、パラメーター設定も、いずれも非常に細かな設定が可能です。設定時には、「管理運用解説書」または「MC実践操作解説書」を参考にしてください。

[図12]



[図13]



プロットデータが定義されている図面を出力します

1. <出力> 【出力操作】

図面を操作するダイアログと出力操作ダイアログが表示されます。[図14][図15]

2. 出力対象の図面として、「PLOT04_BA20.MCD」をSEL

プロットデータが定義済みの図面には「P」マークが付いています。

3. 「選択」

プロット・ファイル名ダイアログが表示されます。[図15]
新たにスケジュールする図面に付けるプロット・ファイル名を入力することができます。

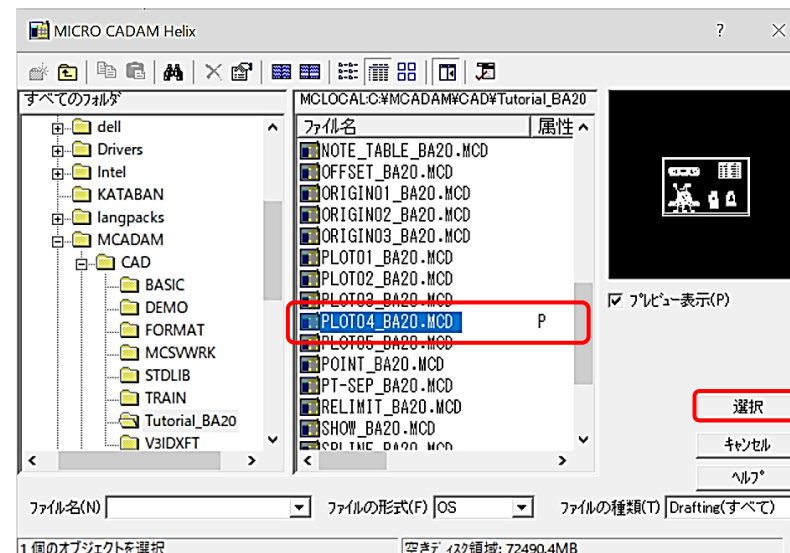
4. 「OK」

出力操作ダイアログに出力予約されます。[図16]

5. 「出力」（すぐに出力する場合）

予約しておいて後で出力する場合は、「出力予約」を選択します。
単一図面のみ出力する事もできますし、複数図面をまとめて連続出力することも可能です。

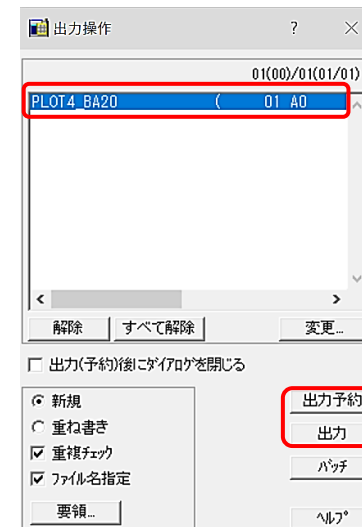
[図14]



[図15]



[図16]

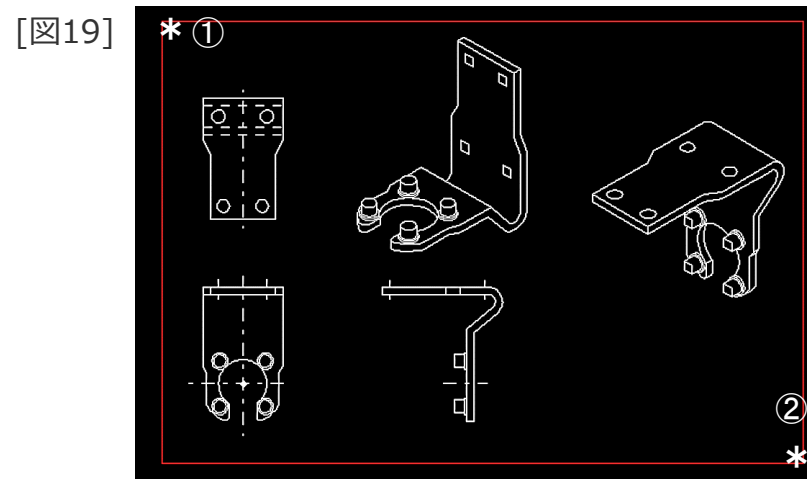
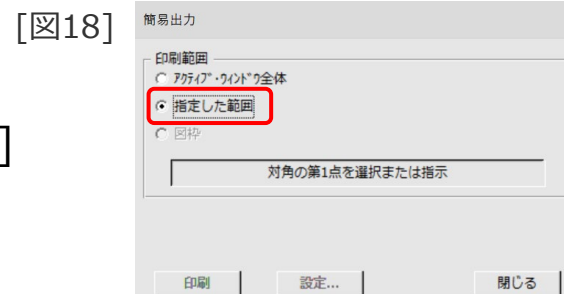


MICRO CADAMでは通常の出力の他に、簡単に出力が出来る「簡易出力」の機能があります

「簡易出力」はファンクション<出力>からではなく、画面上部のメニュー・バー「ファイル」から実行します

1. 図面「PLOT05_BA20」を開く
2. メニュー・バー「ファイル」から「簡易出力」をSEL [図17]
簡易出力のダイアログが表示されます。 [図18]
3. 印刷範囲として「指定した範囲」をSEL
4. 作図範囲として、対角の2点（*①、*②付近）を順次IND [図19]

簡易出力は、通常の出力行とは異なり、事前のプロットデータの作成は不要です。
その場で作図範囲を指定してすぐに印刷する事ができます。



5. 「設定」 [図20]

印刷ダイアログが表示されます。 [図21]

6. 「プリンターの設定」

プリンターの設定ダイアログが表示されます。 [図22]

7. 「印刷の向き」として「横」をSEL

8. 「OK」

9. 「フォーマット設定」 [図21]

フォーマット設定ダイアログが表示され、プレビューを確認することができます。 [図23]

簡易出力では、出力に利用するプリンターのトレイの用紙サイズに合わせてスケールがかかるようになっています。
(自動スケールにチェックがはいっています。)

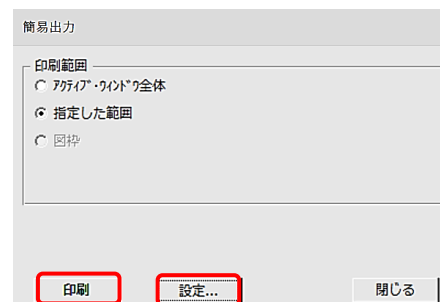
10. 「OK」

11. 「閉じる」 (印刷ダイアログを閉じます) [図21]

12. 「印刷」 (簡易出力ダイアログ) [図20]

印刷が開始されます。
このように簡易出力機能は簡単操作で印刷する事が可能なので、本出力前の確認出図などに利用できます。

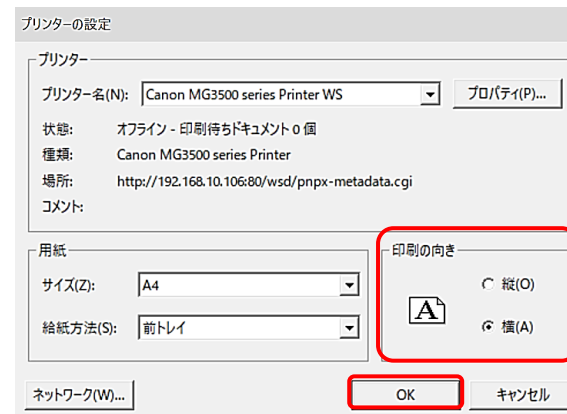
[図20]



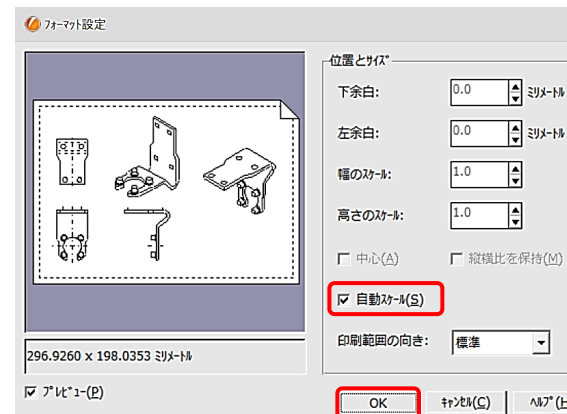
[図21]



[図22]



[図23]





※当資料内の文章・画像・商標等（以下、「データ」）に関する著作権とその他の権利は、弊社または原作者、その他の権利者のものです。企業等が非営利目的で使用する場合、個人的な使用を目的とする場合、その他著作権法により認められている場合を除き、データは弊社、原作者、その他の権利者の許諾なく使用することはできません。

※データ等のご利用またはご利用できなかったことによって生じた損害については、弊社は一切の責任を負わないものとし、いかなる損害も補償をいたしません。

※掲載されている内容は2020年6月時点のものです。内容は、事前の予告なしに変更することがあります。

MICRO CADAM、MICRO CADAM Helix は、株式会社CAD SOLUTIONSの商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。